

SECOMEDIC NEWS

医療法人社団誠善会 セコメディック病院
〒274-0053 千葉県船橋市豊富町 696-1
TEL : 047-457-9900(代) 担当: 総合サポートセンター

皆さまこんにちは。セコメディック病院総合サポートセンターです。六月になり、梅雨の時期になりました。どうして「梅の雨」と書くのか、皆さまはご存知でしょうか？その理由は、この時期に梅の実が熟すからなんです。「梅の実の熟す頃に降る雨」、だから「梅雨」。昔の人はこうやって、じめじめとした時期にも風情を感じていたのかもしれないね。

新任医師のご紹介



消化器科

まさき ひろあき
正木 宏明

2013.3 帝京大学医学部 卒業

専門分野: 消化器一般



今回はありふれた日常の中で、とても稀有な出来事に遭遇した伊東看護部長の手記を掲載します。
朝の通勤時、皆が急いで車を走らせる国道で遭遇した出来事とは…。

奇跡と命を救う勇氣

今回、一般市民の方の勇氣ある行動が一人の命を救ったという、非常に稀有な体験に遭遇したため紹介したい。初春の朝の通勤途中のことであった。その道は片側2車線で、いつもは時速60km程度で車が流れている。いつも通り流れている道で、前を走っている車が1台、2台と右側に車線変更をすることに何かしらの違和感があった。異変に気づいたのは目の前の大きな車が車線変更をした時だった。コンテナを積んだ小型トラックが、側壁に車体の左側を大きくぶつけ白煙を吐き出しながら下っていくのが見えた。点灯していないブレーキランプがバンクではなく、居眠り、もしくは意識消失した運転手の暴走を想像させた。

右に車線変更し、減速する様子のないまま坂を駆け下りる車の中を確認すると、ドライバーは体を完全に左に傾けろなだれているように見えた。すでにハンドルには手がなく、意識消失状態にあることが確信できた。どうしたら暴走している車を止めてこの人を助けられるのだろうかという思いと同時に、これまでに聞きしただけの暴走による死亡事故のニュースが同時に頭に浮かんだ。この先の交差点にそのまま突っ込んだら大惨事になるかもしれないと思った瞬間、自分がえらい場所に身を置いていることを実感した。『異変に気づいていたのに何もなかった自分を一生後悔するくらいなら、やれることをしよう、この先の緩い上り坂でぶつけるしかない』と覚悟を決めた。しかし、暴走している車の前に位置してみたものの、相手は2tか3tのトラックだ。うまく止められる自信もなく、自分の体も無事でいられるかという心配、職場や家族に迷惑をかけること、たまたま乗ってきた夫の車を大破させ、怒りをかうかもしれないなど、いろいろな思いが交錯し躊躇した。

ルームミラー越しに後ろの暴走車の様子を伺っていると、暴走車に並走し始めた車が見えた。そして、二度三度と車の横腹をぶつけ、最後は車の前に回り込んで停車させたのが見えた。『すごい。見事。』すぐに車のエンジンを切ると、ヒールの足で駆け寄った。後部が思いっきりつぶれた運転席から優しい目をした中年男性 A さんが出てきた。A さんには大きな怪我がなかったようで、すぐに救急と警察に電話をいれてくれた。私は、開けばいいなと心配しながらコンテナ車のドアに手をかけると、意外にもすんなりと開いた。初老の男性ドライバーは意識がなく内頸動脈の拍動も感じられなかった。身体が大きく、シートベルトを解除するのに十分な力が要った。車内での胸骨圧迫は運転席周辺の構造上できそうもなく、かといって道路に降ろそうにも座席が高いため、自分一人で地面に降ろしたら、至るところを骨折させてしまう可能性があった。手がほしくて横を通り過ぎる車に必死に合図したが、みな、見てみぬふりをして通り過ぎていった。朝から暑い日で、短いスカートにヒールをはいていた。トラックのステップに立ち、風にあおられる私の姿を見た人は可笑しかったに違いない。

自分の肩にドライバーの上体を傾けながら下ろそうとしていると、「僕やりますよ」と声をかけてくれた人がいた。偶然にも、A さんと同じ会社の方が、『同じ作業服を着ている人が何かしている』と車を止めてくれたのだ。小柄な男性だったが、重い上半身を軽々と担いでくれた。アスファルトの上ですぐに胸骨圧迫に入った私の膝を心配して、「何か敷きますか?」と優しい気遣いを見せてくれた。ドライバーの頭がアスファルトに擦れるのが心配で、貸してくれたジャンパーはそちらにお願いした。1 kmほど先のコンビニに AED をとりにいってもらうように頼んだ。救急隊到着とどちらが早いかわからなかったが他に選択肢はなかった。

A さんは、「救急車が15分程で着きますよ」と声をかけてくれたあと、後ろが大きく凹んだ A さんの車から発煙筒を取り出し、落ち着いた様子で車の誘導にはいった。センターラインのすぐそばで胸骨圧迫をする私の怖さを緩和してくれた。

胸骨圧迫を始めて3分ほどすると、あえくような呼吸が一度だけ見られた。『いけるかも』『助けられるかも』と思った。このまま、三途の川を渡らせたら、本人はもちろんだが家族が納得しない。『戻ってきて』『今死んじや駄目!』。生きて家族に会えるように大きな声で励まし続けた。救命できるアイテムも薬もない。できることは胸骨圧迫だけだという現実、自分の技術の精度が試されている感じがした。通り過ぎる車の中には、わざと減速して覗き込むように見ていく人や、冷やかしの言葉を投げつけていく人もいた。多くの人にとって人命救助の場面は、興味の対象にしかならないこともあるという現実を知った。救急隊が到着し、手際よく AED を装着した。ようやく医療につなげられた安堵感があった。何度が現場でショックをかけるうち、数分後自己心拍が再開した。

救急車を見送り警察から事情聴取を受ける段になって、自分のストックの膝に大きな穴が開いて出血していることに気づいた。不思議と痛みはなく、こんな私でもそれなりに緊張していたのだと思った。A さんに「すごい勇氣でしたね。車は、買い替えになってしまいそうですね。」と声をかけると、「いやー、うまくいって良かったです。ぶつけることで運転手さんがもっと具合悪くなるんじゃないかなって考えたりして。自信はなかったんですけど。車は自分のところの社長に買ってもらいます。」と笑った。聞けば、仕事は車両のリースを専門にしている、車の知識や誘導の経験はあったという。逆に、『看護師さんってすごいですね』というようなことを言われたが、暴走車を止めてくれた人、車からドライバーを下してくれた人がいなければ、私は何もできなかった。しかも、したことといえば場所が変わっただけで、普段病院でしていることと何ら変わらない。覚悟だけは立派で、車をぶつける勇氣がなかった私は、胸がちくりと痛んだ。

私が体験したことは本当に稀有で、この先、多くの人と同じような場面に会う可能性は低いだろう。ほとんどの人はその場から逃げたくなるだろうし、何もできないからと近づくことをためらうのかもれない。でも、こんな時には一つでも多くの手があれば、できることはたくさんある。この手記を読んでもくれた人をお願いしたいことは、もし救命の現場に遭遇することがあれば、何かできることはあるのだから無関心でいなくて手を差し出してほしいということである。

後日警察から、ドライバーの方のその後の経過を伺う機会があった。意識が戻り会話が可能なレベルに達したという。「お医者様も『奇跡』だっておっしゃってました。」と興奮気味に話してくれた。ドライバーの方には後遺症を残さずに社会復帰してほしいと強く願うし、これから家族と過ごす時間が充実したものであってほしい。

あの状況で大惨事にならずに、そして誰も傷つらずに一人の命が助かったことは本当に『奇跡』なのかもしれない。車両に詳しい A さんが通りがかったこと、携帯電話をとりに戻ったためにいつもより通過時間が遅れた私がそこに居合わせたこと、偶然 A さんの同僚が通りがかったことも、何かに引き寄せられた奇跡的なめぐりあわせだと思わずにはいられない。それにしても、今回の救出劇の一番の立役者は A さんである。勇氣に心から拍手を送りたい。

セコメディック病院 看護部長

いとう みよこ
伊東 都



救急・総合診療セミナーのご案内

第6回開催のご案内

平成 29 年 7 月 29 日(土)

- 講演 1 「基礎から理解するバイタルサインの見方(仮)」
- 講演 2 「バイタルサインからの臨床診断アプローチ法(仮)」 14:00~18:00
受付 13:30~
- 講演 3 「バイタルサインで考える怒涛の症例問題(仮)」 事前申込・参加費 不要
講師: 入江 聰五郎医師(入江病院 副院長) 直接会場までお越しください。

第7回開催のご案内

平成 29 年 9 月 10 日(日)

- 講演 1 「経口ペニシリンおよびカルバペナム系抗菌薬という名の武器の使い方(仮)」 14:00~18:00
講師: 永田 理希医師(金沢感染症倶楽部 代表世話人) 受付 13:30~
- 講演 2 「急性期における終末期対応(仮)」 事前申込・参加費 不要
講師: 小杉 和博医師(川崎市立井田病院 緩和ケア内科) 直接会場までお越しください。

会場 セミナーハウスクロス・ウェーブ船橋

〒273-0005 千葉県船橋市本町 2-9-3
TEL 047-436-0111(代)

詳細は…

セコメディック病院

※当日は公共の交通機関を使って会場までお越しください。